

シリーズ1、病虫害等による庭木の被害とその対策（11） —カイガラムシ類の冬季防除—

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村 正史

庭木の病虫害の発生状況はどうか。最近「温暖化」のためかどうかはわかりませんが、病虫害の多発が目につき、庭木の防除に大変苦労されているのではないかと思います。そのような病虫害の中で、カイガラムシ類は、ふ化した直後の幼虫を除けば、堅い殻やロウ物質で覆われているため、防除効果が思うように上がらない代表的な害虫です。この害虫に対してどのような対策をとったらよいのでしょうか。

代表的な防除薬剤

カイガラムシ駆除の効果的な薬剤は、「マシン油乳剤」です。この薬剤は、毒性で殺虫するのではなく、薬剤が乾燥した後に膜が形成され、その膜で虫を包み込むことにより害虫を窒息させます。

散布方法

「マシン油乳剤」を水で25～50倍に薄め、展着剤（薬剤の樹木への付着を高めるもの）を1ℓ当たり数滴添加し、それを数日おきに2～3回散布します。樹木への散布量は薬剤が樹木から滴り落ちる程度を目安にします。その際、購入した「マシン油乳剤」の使用方法をよく読んで、希釈率などを正確に守り、よく晴れた風のない日に、マスクやゴム手袋、帽子などでしっかり防御して散布しましょう。また、皮膚や自動車、フェンス等に着かないように注意してください。万が一ついてしまった場合はすぐによく水で洗い流してください。

散布時期

12月中旬から3月中旬（常緑樹は2月上旬）で、なお、本県のような積雪地帯では降雪直前か雪解け直後で、雨の降らない日が続いた時に散布してください。

対象樹種

散布してよい樹木としては、落葉性庭木、アオキ、サンゴジュ、ツゲ、ツツジ、ツバキ、マサキ、

モクセイ、モッコクなどです。適用樹種は登録されている「マシン油乳剤」のラベルに記載されていますので、購入時に必ず確認してください。

薬害

マツ類とサツキ類では品種により薬害が出ることがありますので、注意してください。その他、樹勢が衰えている樹木では散布を控える方がよいと思います。

また、冬季以外の時期、要するに樹木が活動を始めた時期に散布すればひどい薬害が発生しますので、注意してください。

その他の対象害虫

この薬剤はカイガラムシ類以外にもハダニ類にも効果がありますが、病気には効力はありません。

その他

冬季の防除方法として「マシン油乳剤」以外に「石灰硫黄合剤」があります。この薬剤は、カイガラムシ類やハダニ類以外に、さび病などの病気にも効果があります。しかし、この薬剤は強アルカリ性で金属を腐食させるので自動車などにかからないように散布する必要があること、皮膚や粘膜に付着すると火傷のような病状になるので直接触ったり吸い込んだりしないことなど、注意すべき点があります。そのため、病気に効果があることを考慮しても、庭木のカイガラムシの防除には「マシン油乳剤」がお勧めです。なお、「マシン油乳剤」と「石灰硫黄合剤」を同時に散布するとか、混合して散布することはできません。どうしても両者を散布したい時は1ヶ月程度の間隔をおいて散布してください。